

品詞サーチ

名詞化名詞（見えない名詞） / 自然名詞（見える名詞） / 動詞 / 形容詞 / 副詞

論文

文化論的転回に焦点を当てながら観光人類学の研究成果を検討すると明らかになるのは、観光という対象はあくまでも、文化概念の転換と切り離すことのできない政治性と構築性を論じるための事例であり、それらを表出させる観光という現象それ自体については、議論の対象とはならないということである。観光を論じるのではなく、あくまでも観光を通じて「文化」について語ることが、「ポストモダン人類学」、文化論的転回と密接にかかわる観光人類学の基本的視座であった。

（引用：鈴木遼太郎「文化論的転回と日本における観光人類学」『観光学評論 Vol.1 No.2 2013』観光学術学会、p.164）

童謡

みかんの花が咲いている、思い出の道、丘の道、はるかに見える青い海、お船がとおい、かすんでる。黒い煙をはきながら、お船はどこへ行くのでしょうか。波に揺られて、島のかげ、汽笛がぼうと鳴りました。何時か来た丘、母さんと、一緒に眺めたあの島よ。今日もひとりで見てると、やさしい母さん 思われる。

（「みかんの花咲く丘」作詞：加藤 省吾、作曲：海沼 実）

童話

親指小僧は、なにかみえないかと木にのぼってみました。遠くの方に、かすかに小さな明かりが見えます。木からおりると、なにも見えなくなりました。それでも、明かりの見た方へ向かってしばらく歩くと、森のはずれでまた、さっきの明かりが見えました。そして、やっとのことで明かりのともっている一軒の家にたどりつきました。戸をたたくと、親切そうなおばさんが出てきました。

（引用：ペロー、末松氷海子訳「親指小僧」『ながぐつをはいたネコ』集英社みらい文庫、p.114）

ミルトン・モデル

ああ、そうですね、ジョー、わたしは農場育ちで、トマトの種はすばらしいものだと思っています。考えるんです、ジョー、考えるんです、あの小さな種の中で美しい植物が安らかに、すっかりくつろいで眠ることを。そして、やがてそれが育ち、いつかあの興味深い葉と枝を伸ばすことを。葉や枝は見るからに美しく、実に美しく色鮮やかで、トマトの種を見て、その中にあるすばらしい植物のことを考えていると、あなたは本当に幸せな気持ちになることができます。

（引用：リチャード・バンドラー、ジョン・グリンダー、浅田仁子訳『ミルトン・エリクソンの催眠テクニック I』春秋社、p.41）

落語

真っ黒な空から、ぼつ、ぼつ、ぼつぼつ、降りだした。ふと気が付くと、後ろのほうから、濡れ藁に出てまわる足音、じた、じた、じたじた、こんな夜中に一体誰がつけてきやがったんやろう、まいてやろうと足を早めて、すたすたすたすた、後ろの足音、じたじた、じたじた、やりすごそうと止まると、後ろもぴた。また歩き出すと、じた、じた、「えへへ、へへ、このよう、おやじさん、この話、だいぶ、怖いね」、「ああ」、こうなったら、後ろ振り替えて見る事が出来るね。どこぞになんぞないかいな、ひよいと見ると、小さなお堂があって、前に賽銭箱。「よし、こいつや、すたすたすた、ひよいと隠れた。

（桂枝雀『饅頭こわい』）